

「薬用作物産地支援 栽培技術研修会」開催

12月11日(火)、熊本県人吉市で「薬用作物産地支援 栽培技術研修会」が開催された。この研修会は、薬用作物栽培に関する指導者が少ない現状を踏まえ、薬用作物の産地形成や栽培技術指導体制を確立することを目的に、各県の普及指導員や市町村職員を対象として、薬用作物産地支援協議会(薬産協)が実施したものである。本年度は、8月21日の北海道会場を皮切りに全国7会場で開催され、熊本会場が最後の研修会であった。



研修内容は、まず現地研修として「あさぎり薬草合同会社」のサイコ圃場において、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、種子・種苗の供給、品質評価などについて、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深めた。その後「薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について」と題し、日漢協の生薬国内生産検討班の高林耕平班員による講義が行われた。参加者からは産地化の手順や、栽培上の課題解決について質問が多く寄せられ、活発な意見交換の場となった。

薬産協では、今後薬用作物を栽培しようと考えている方々を対象として、標準的な栽培方法をまとめた冊子「薬用作物 栽培の手引き(2)」を作成しており、研修会の参加者に配布した。今後、本冊子は薬産協のホームページでも公開予定である。

